

命に向き合う 知のつながり — 未来を構想する大学

地球温暖化、天然資源の枯渇、食糧不足、新型の感染症など、人類の存続にとって深刻な課題が山積する中、学術、特に「人間とは何か」、「社会はどうあるべきか」を問う人文学・社会科学に対して、社会課題に向き合い未来を構想することが求められています。今年度、この期待に応えるために提案された文部科学省の委託事業「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」に大阪大学が採択され、社会ソリューションイニシアティブ（SSI）が企画運営を担うことになりました。シンポジウムでは、大阪大学元総長の鷲田清一名誉教授に講演していただくとともに、様々な大学に関連する活動を紹介していただき、未来を切り拓く大学間ネットワークの構築につなげたいと思います。

2021.3.16 Tue. 13:00-18:00 ◎参加費：無料
◎定員：500名

オンライン
開催

第1部「人文学・社会科学の可能性」

- 13:00 開会の辞
西尾章治郎 大阪大学総長
- 13:10 来賓挨拶
杉野 剛 文部科学省研究振興局長
- 13:20 プロジェクトの概要説明
盛山和夫 事業総括者／東京大学名誉教授
- 13:30 今年度の活動報告
堂目卓生 プロジェクト・マネージャー
- 13:45 講演「学問と社会 再論」
鷲田清一 大阪大学元総長／名誉教授

第2部「未来を切り拓く大学間共創ネットワークの構築に向けて」

- 15:00 事例紹介
堂目卓生 大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ長
出口康夫 京都大学 人社未来形発信ユニット長
田口 茂 北海道大学 人間知×脳×AI研究教育センター長
大竹尚登 東京工業大学 未来社会DESIGN機構副機構長
小林信一 広島大学副学長
- 16:25 パネルディスカッション
堂目卓生、出口康夫、田口茂、小林信一、
佐藤 勲 東京工業大学 未来社会DESIGN機構長
モデレーター：井野瀬久美恵 甲南大学文学部教授
- 17:55 閉会の辞 三成賢次 大阪大学理事・副学長

参加申込は
こちらから



or

クリック

[https://forms.gle/
cB7KV7ui6AKikofQ9](https://forms.gle/cB7KV7ui6AKikofQ9)

登壇者プロフィール

基調講演



鷺田 清一（わしだ きよかず） 大阪大学名誉教授
テーマ：「学問と社会 再論」

1949年、京都市生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。大阪大学教授、同総長、京都市立芸術大学理事長・学長等を歴任。元日本倫理学会会長。現在、せんだいメディアテーク館長、サントリー文化財団副理事長。専門は、臨床哲学・倫理学。主な著書に『「聴く」ことの力』、『メルロ＝ポンティ』、『哲学の使い方』、『待つということ』、『つかふ 使用論ノート』など。サントリー学芸賞、読売文学賞、桑原武夫学芸賞を受賞。

パネルディスカッション

「未来を切り拓く大学間共創ネットワークの構築に向けて」

◆モデレーター | 井野瀬 久美恵（いのせくみえ） 甲南大学文学部教授

京都大学大学院文学研究科(西洋史学専攻)博士課程単位取得退学。博士(文学)。専門はイギリス近現代史・大英帝国史。『植民地経験のゆくえ——アリス・グリーンのレストランと世紀転換期の大英帝国』(人文書院、2004)で女性史青山なを賞を受賞。『子どもたちの大英帝国』(中公新書、1992)、『大英帝国という経験』(講談社、2007; 講談社学術文庫、2017)など著書多数。



●小林 信一（こばやし しんいち）

広島大学副学長(人間社会科学担当)

テーマ：「組織と分野の垣根を超えて—広大の挑戦、私の挑戦」



筑波大学大学院博士課程単位取得退学。専門は科学技術政策、高等教育政策、科学技術論。東工大、電通大、NISTEP、筑波大、JST(社会技術研究立上げ)、産総研、国会図書館(科学技術に関する調査プロジェクト立上げ)等を経て2018年より広島大学高等教育研究開発センター長、本年度から人間社会科学研究所長を兼ねる。科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞(科学技術振興部門)受賞。

●佐藤 勲（さとう いさお）

東京工業大学未来社会DESIGN機構長/
総括理事・副学長



1984年 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程中途退学、1989年 工学博士。2000年 東京工業大学大学院教授。専門は熱工学。2008年 理事・副学長(研究担当)総括補佐、2012年 教育研究評議員、2011年 グローバルリーダー教育院長、2014年 副学長(国際企画担当)、2017年 副学長(戦略構想担当)、2018年から総括理事・副学長、理事・副学長(企画担当)ならびに未来社会DESIGN機構長の任にある。

●田口 茂（たぐち しげる）

北海道大学人間知×脳×AI研究教育センター長

テーマ：「〈新しい人間知〉の開拓 — 北海道大学人間知×脳×AI研究教育センター(CHAIN)の試み」



ヴッパータール大学(ドイツ)大学院哲学科博士課程修了。哲学博士(Dr.phil.)。北海道大学大学院文学研究科教授。専門は哲学、特に現象学。近年は数学者・神経科学者・ロボット工学者らと「意識」や「自己」をめぐる学際的共同研究を行っている。CHAINでは大学院生向けの文理融合的教育プログラムも展開している。主著*Das Problem des 'Ur-Ich' bei Edmund Husserl* (Springer, 2006)、『〈現実〉とは何か——数学・哲学から始まる世界像の転換』(西郷甲矢人氏との共著、筑摩書房、2019)他。

●大竹 尚登（おおたけ なおと）

東京工業大学未来社会DESIGN機構副機構長

テーマ：「未来社会との向き合い方を探る — 東京工業大学DLabの活動事例」



1986年東京工業大学工学部機械工学科卒業、1992年博士(工学)。同大学助手、助教授、名古屋大学助教授、准教授を経て、2009年東京工業大学准教授、2010年同大学教授、2015～18年に副学長を兼務。2020年度から同大学未来産業技術研究所所長。専門は機能材料と材料加工。同学未来社会DESIGN機構副機構長として未来年表、未来社会像の作成に取り組む。

●出口 康夫（でぐち やすお）

京都大学人社未来形発信ユニット長

テーマ：「価値の座標軸を提案する人文学・社会科学 — 京大人社ユニットの取り組み」



専攻は哲学。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。現在、同大学院哲学専修教授・京都大学副プロボスト。数理哲学に加え、新領域である分析アジア哲学を研究。近著に *What Can't Be Said: Contradiction and Paradox in East Asian Thoughts* (Oxford University Press, 2021)がある。京都大学人社未来形発信ユニット長としてオンライン講義シリーズ「立ち止まって、考える」を主導すると共に、NTTや日立製作所との産学連携も行なっている。

●堂目 卓生（どうめ たくお）

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長

テーマ：「命を大切にすることを目指して — SSIの理念と活動」



京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。専門分野は 経済学史、経済思想。 *Political Economy of Public Finance in Britain 1767-1873* (Routledge 2004)で日経・経済図書文化賞、『アダム・スミス—「道徳感情論」と「国富論」の世界』(中央公論新社、2008)で、サントリー学芸賞を受賞。2019年、紫綬褒章。2001年より大阪大学教授。2018年より社会ソリューションイニシアティブ(SSI)長。